

2026年3月期 第2四半期

決算概要および 現況のご報告



ニデック株式会社

－ 注意事項 －

- ・本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答には、将来に関する見通し、期待、判断、計画あるいは戦略が含まれています。
- ・この将来予測に基づく記載や発言は、為替変動、製品に対する需要変動、各種モータの開発・生産能力、関係会社の業績及びその他のリスクや不確定要素を含みます。
- ・本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答に含まれる全ての将来的予測に基づく記載や発言は、プレゼンテーションの日に入手可能な情報に基づいており、私達は、法令に定めのある場合を除き、このような将来予測に基づく記載や発言を更新する義務を負いません。
- ・また、この記載や発言は、将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が、私達の現在の期待とは、実体的に異なる場合があります。
- ・このような違いには、多数の要素が原因となり得ます。
- ・これらの要素やリスクについては当社の継続開示及び適時開示等の記載をご覧ください。

決算概要

3

■半期の決算ハイライト



売上高

13,023億円
前年比**+0.7%**

営業利益

211億円（利益率**1.6%**）
前年比**▲82.5%**

業績のポイント

- ✓ 売上高は、機器装置事業の販売で苦戦したものの、車載事業、家電・商業・産業用事業の販売増が寄与して、前年比85億円の増収
- ✓ 営業利益は、顧客との契約履行に係る費用、車載事業における減損損失、仕入先からの求償請求の和解費用等、車載製品グループにおける特定の要因によるマイナス影響が大きく、前年比994億円の減益
- ✓ キャッシュ創出力は健全に維持しており、上期累計の営業キャッシュフローは1,123億円、フリーキャッシュフローは452億円を創出

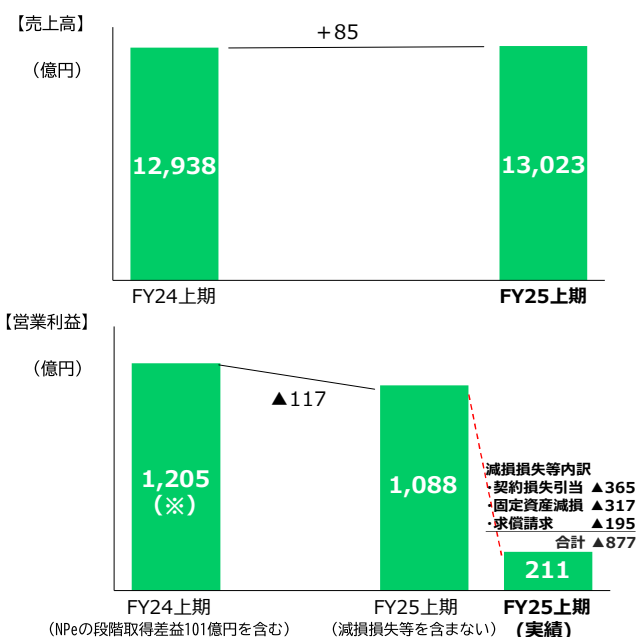
留意点

- ・ 不適切会計の疑義に係る第三者委員会の調査が継続中※
- ・ 会計監査人から結論不表明のレビュー報告書を受領
- ・ 車載製品グループの特定の要因によるマイナス影響は、修正後発事象として1Q会計期間で計上

※過年度及び当年度の財務諸表に訂正すべき重要な虚偽表示が識別された場合には、過年度及び当年度の有価証券報告書の訂正等を含め、適切な対応を行う方針です。したがって本決算情報も修正される可能性があります。

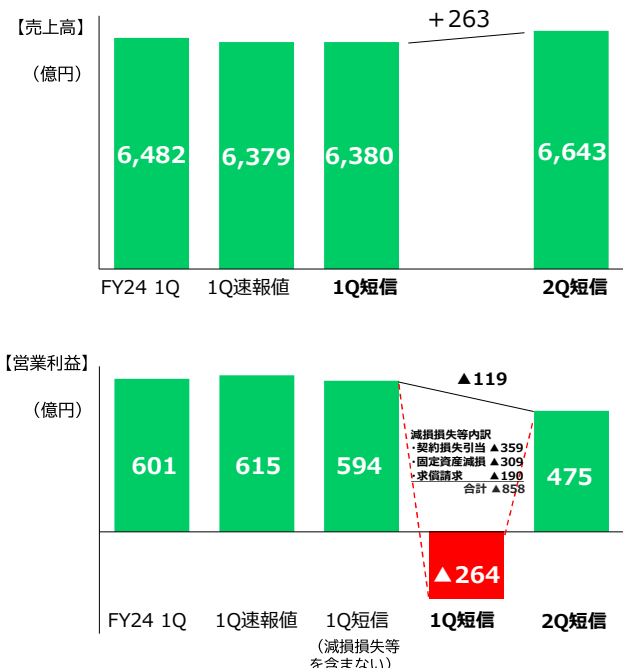
4

■2025年度2Q(累計)の前年同期比増減分析



(億円)	24年度 上期	25年度 上期	前年同期 増減率
売上高	12,938	13,023	0.7%
営業利益	1,205	211	-82.5%
営業利益率	9.3%	1.6%	-
税引前利益	996	303	-69.6%
親会社の所有者に 帰属する 中間利益	754	312	-58.6%
一株利益 (円)	65.59	27.21	-58.5%
配当金 (円)	40.00	0.00	-
対米ドル為替レート 平均・・・ 期末・・・	152.63円 142.73円	146.04円 148.88円	-4.3% 4.3%

■2025年度2Q(3か月)の直前四半期比増減分析

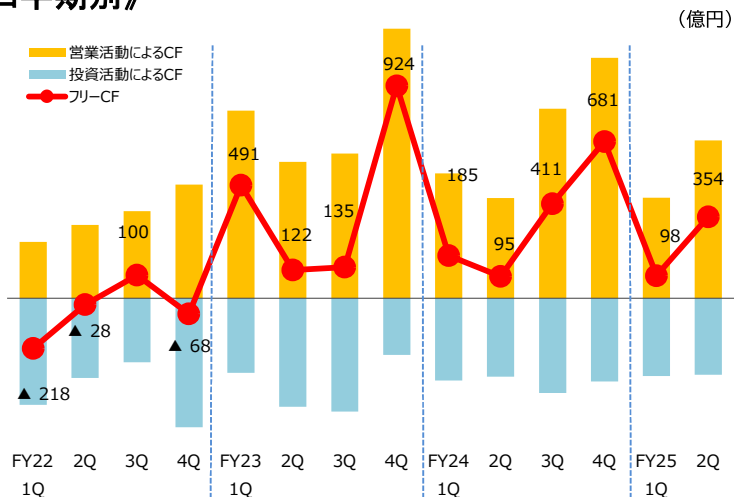


(億円)	24年度 第1四半期	25年度 第1四半期 業績速報値*	25年度 第1四半期	前年同期 増減率
売上高	6,482	6,379	6,380	-1.6%
営業利益	601	615	-264	-
営業利益率	9.3%	9.6%	-4.1%	-
税引前利益	784	590	-278	-
親会社の所有者に 帰属する 四半期利益	560	455	-94	-
一株利益 (円)	48.72	39.70	-8.19	-
対米ドル為替レート 平均・・・ 期末・・・	155.88円 161.07円	144.59円 144.81円	144.59円 144.81円	-7.2% -10.1%

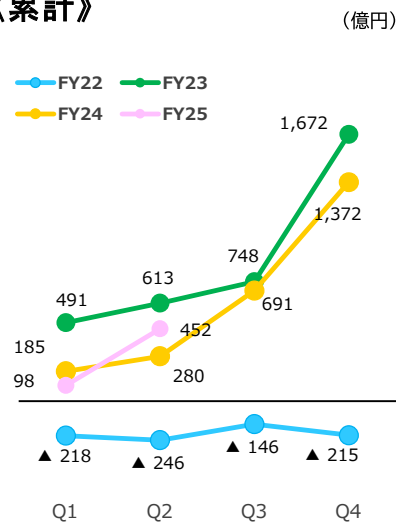
*業績速報値は2025年7月24日にお示しした数値となります。

■フリーキャッシュフロー

《四半期別》



《累計》



経緯と取り組み

■これまでの主な経緯

2025年

▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
6/27	9/3	9/26	10/23	10/28	10/30	11/4	11/14
有価証券報告書の提出延期	第三者委員会の設置	内部統制報告書の提出 有価証券報告書の提出	業績予想・期末配当予想修正 中間配当無配決定	特別注意銘柄への指定	ニデック再生委員会の設置	コミットメントライン契約の締結 お取引先様へのお詫び掲載	改善計画の策定方針の提出 1Q・2Q決算短信・半期報告書の提出

9

■これまでに実施した改善策等

◆ FIR社に関する貿易取引上の問題を契機とした再発防止策等の推進:

(1) コンプライアンス最優先の意識・企業風土の醸成

- 取締役会から当社グループ内に対する明確なメッセージの発信
- 代表取締役社長執行役員からのグローバル幹部に対する明確なメッセージの発信
- 法務コンプライアンス部門の機能・権限強化
 - ✓ 新たに社内弁護士を配置し、内部通報対応および調査体制の強化

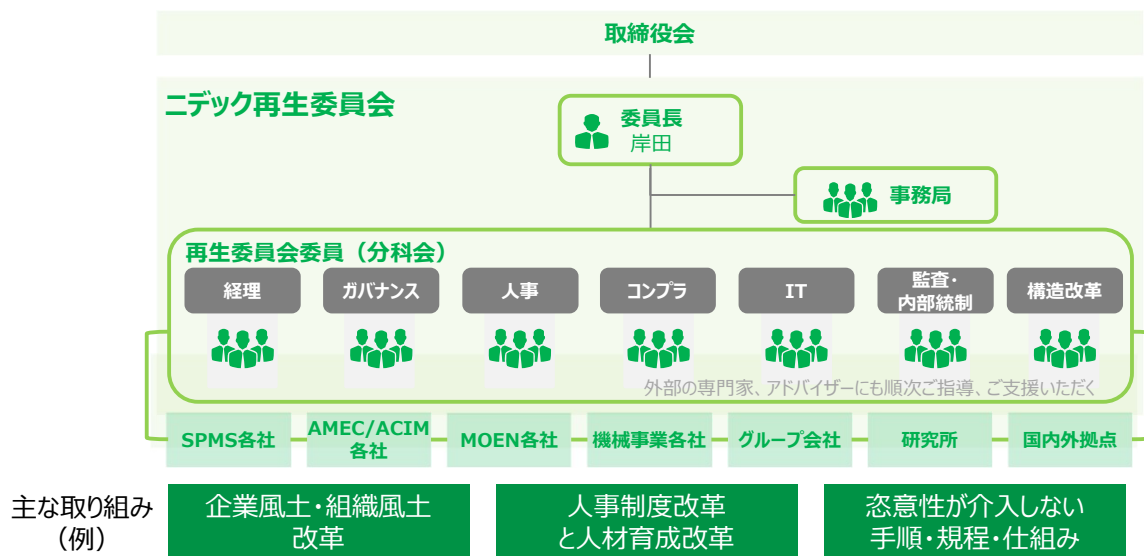
(2) 組織・体制の強化

- グローバルガバナンス体制の強化
 - ✓ CLO（最高法務責任者）の設置
 - ✓ 北米拠点への法務コンプライアンス専門家の配置

10

■当社の取り組み（‘25/10/30 ニデック再生委員会の設置）

目的 高い倫理観で「正しい」を最優先に実践できる企業として再生



11

■改善計画の策定方針

- ◆ 本日、策定方針を東証へ提出して、開示
- ◆ 引き続き、第三者委員会の調査に全面的に協力して、**徹底的な調査と原因究明**を実施。
第三者委員会の調査報告*を真摯に受け止め、実効性のある再発防止策を策定。
- ◆ ニデック再生委員会において、**順次、再発防止策の策定・実施に着手**。
- ◆ 2026年1月下旬に、改善計画を策定、提出（予定）
- ◆ 2026年10月に、内部管理体制確認書等の提出を経た後、指定解除審査へ（予定）

*第三者委員会より、調査範囲は当社及びグループ会社を対象とする過去複数年度にわたる不適切な会計処理の有無等であって非常に広汎であり、また、様々な調査手続を実施して慎重に調査を進めていることから、少なくとも本年内に調査報告書を提出する予定はない旨を伺っております。

12

質疑応答

13

補足資料

業績推移・ 製品グループ別状況

14

製品グループ別、四半期業績推移

()内の数字は営業利益率

